わたしについて来なさい

マルコによる福音書　１：１６－２０

司祭　ヨハネ 井田　泉

2024 年 1 月 21 日

顕現節第 3 主日

聖光教会にて

「イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。」マルコ 1:16

この場面、情景を思い浮かべてみましょう。

イエスが、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられます。夜が明けた頃かもしれません。湖を渡ってくる風が頬をなで、髪の毛を揺らします。朝の新鮮な空気。朝日が湖を照らしています。イエスが踏まれる海辺の砂がザクザクと音を立てています。

二人の人が目に入りました。漁師です。岸辺からそれほど遠くない、湖に浮かべた舟の上から網を打っています。

イエスはそれをご覧になりました。ぼんやりとではなく、はっきりと二人を見つめられました。イエスのうちに決意が起こっています。その決意は言葉となって発せられました。

「わたしについて来なさい。あなたがたを人間をとる漁師にしよう」1:17

すると何が起こったのでしょうか。

「二人はすぐに網を捨てて彼に従った」1:18

こんなことがあるのでしょうか。呼びかけられただけで、網

を捨て、漁師の仕事を捨ててイエスに従うとは。実はこれが二人とイエスの初対面ではなくて、これまでに何度か二人はイエスと出会っていたのかもしれません。以前から二人はイエスに強い関心を持っていたかもしれないのです。

けれども今はそれには深入りせず、二人を呼ばれたそのときのイエスの目、イエスのまなざしを思い浮かべてみましょう。イエスの目は、どのような目だったのでしょうか。

第1に、イエスの目は人をはっきりと見つめ、見通される目です。イエスがシモンとアンデレをご覧になったとき、イエスはただ、二人が漁師であって漁師の仕事をしているということだけを見られたのではありません。二人の抱えている事情、二人の心の中にある悩みや葛藤、願いや祈り……。それらをはっきりとイエスはご覧になったのです。

第2に、イエスの目は人を愛する目、思いやる目、人を心配する目です。優しい目です。二人を支え守りたい。二人を祝福したい。神さまの救いと働きの中に招き入れたい。イエスは愛の目を二人に注がれました。

第3に、イエスの目は決意し、人を動かす目です。イエスの目

は二人を捕らえた。この二人、シモン・ペテロとアンデレは神さまのご用をすべき者たちです。イエスは二人をご覧になった。ご自分のもとに二人を招く決意をされています。

二人はイエスの目に見つめられ、その愛と真実のまなざしに引き寄せられました。

「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」1:17

ここにはイエスのユーモアがある気がします。今までは魚の漁師、これからは人間の漁師。これまでは魚をとる漁師でしたが、これからは人を神さまのもとに招く漁師、神さまのために人を捕まえる漁師です。

イエスの招きが二人を捕らえた。イエスの目とイエスの声とがともに働いて、二人を動かしました。この人について行きたい。二人は網を捨ててイエスについて行きます。

ペテロとアンデレはイエスを愛し、慕っていました。

その後、ペテロは弟子たちを代表してイエスに対して信仰告白をしました（マルコ 8:29）。イエスから強く叱られもしました（8:33）。

そして最後の食卓では、「どんなことがあっても自分だけはイエスを知らないなどとは決して言わない」とペテロは言いまし

た（14:31）。けれどもその数時間後に、彼は大祭司の屋敷の庭で「イエスの仲間だろう」と問い詰められて、「そんな人は知らない」と言ってしまうのです（14:71）。

けれどもそれで終わりではありませんでした。イエスはこのペテロを見捨てられませんでした。マルコ福音書はイエスの復活については控えめにしか語りません。しかしそのマルコ福音書の終わりのほうで、イエスの墓に現れた若者（天使？）は女の人たちにこう言うのです。

「弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方はあなたがたより先にガリラヤへ行かれる。そこでお目にかかれる』と。」

マルコ 16:7

復活されたイエスは、ペテロのことを心配されました。イエスを裏切った自責の苦しみの中にあるに違いないペテロ。そのペテロをイエスは愛して、新しく彼を立ち直らせる決意をしておられます。イエスは彼に会おうとして待っておられるのです。

かつてシモン・ペテロとアンデレをご覧になったイエスは、今わたしたちをご覧になります。

第1にイエスは、わたしたちをはっきりとご覧になります。わたしたちの抱えている現実も事情も、またわたしたちの気持ち

も信仰も不信仰も全部、はっきりとご覧になります。わたしたちのことをすべてわかってくださるのです。

第2にイエスはわたしたちを愛の目でご覧になります。優しい目です。イエスはわたしたちの抱える心配、困難、病、重い課題をはっきりと見て知られます。イエスがわたしたちをご覧になる目は愛の目です。わたしたちを支え、祝福し、導こうされる目です。

そして第3に、イエスの目は、決意をもってわたしたちをご覧になる目です。わたしたちを神さまのために、神の国のために生かし用いようとされます。

ペテロとアンデレは網を捨ててイエスに従いました。典型的な弟子の姿です。しかしイエスは全員に同じことを求められる訳ではありません。ある人には網を捨てて従うことを求められますが、ある人には網を持ったままで、この生活をし続けるままで、神さまの働きに加わるように、イエスはわたしたちを招かれるのです。

かつてイエスはわたしをご覧になって、わたしを呼ばれまし

た。皆さんを見つめて、皆さんを呼ばれました。いつだったでしょうか。それから時が流れました。

そして今、あらためてイエスはわたしをご覧になって、わたしを呼ばれます。皆さんを見つめて、皆さんを呼ばれます。わたしを捕まえられます。

「わたしについて来なさい。」

最初に呼ばれてから、これまでどういうことがあったとしても、うまくいくことがあり、反対に大きな困難な失敗があったとしても、今イエスはわたしたちを新しく招かれます。他のどこに行く所があるでしょうか。わたしたちは新しく決意し、新しく歩み出します。イエスについて行き、イエスの働きに加わるのです。

お祈りします。

主イエスさま、あなたがかつてペテロとアンデレをご覧になったように、愛の目でわたしたちをご覧ください。わたしたちは不安や葛藤、重荷を抱えています。けれどもそのようなわたしたちをあなたは愛の目でご覧になり、わたしたちを招いてくださいます。わたしたちを捕らえてください。あなたについて

行かせてください。あなたの願いと目的のためにそうさせてください。終わりまでわたしたちの生涯を保ち、導いてください。アーメン